

## 令和3年度第4回子ども・子育て会議 会議録

### 日時

令和4年1月25日（火曜）15時～17時

### 場所

ZOOMアプリにてオンライン開催

### 出席委員

柏女会長、田中副会長、矢口委員、藪本委員、松本委員、伊藤委員、高山委員、橋本委員、羽中田委員、小澤委員

### 欠席委員

佐藤委員、松田委員、櫻庭委員、杉橋委員

### 傍聴者

なし

### 事務局

秋元子ども家庭部長、小谷子ども家庭課長、遠藤保育課長、倉本子ども家庭課主任主査、廣原子ども家庭課主査、北根子ども家庭課主事

### 議題

(1) 第2期子どもをみんなで育む計画の見直しに向けた議題について

### 配布資料

(1) 子ども・子育て会議に係る議題の設定について

(2) 議題設定に対するご意見

(田中副会長、橋本委員、松本委員、小澤委員、藪本委員提供)

## 議事録（概要）

### 《柏女会長》

定刻となりましたので、只今から、令和3年度第4回流山市子ども・子育て会議を開催させていただきます。

次に会議の成立について申し上げます。本日の会議は、委員14名中、出席委員10名、欠席委員4名です。会議は、委員の半数以上の出席により成立しますので、本日の会議は成立していることを報告します。

それでは、秋元部長挨拶をお願いします。

### 《秋元部長》

本日はお忙しいところ会議にご出席いただき、ありがとうございます。本市も新型コロナウイルス感染症の急拡大に見舞われてしまいました。私が所管しております保育施設では、1月11日から本日までの約2週間の間に18施設が休園となってしまいました。ご出席の委員の皆様も感染拡大の影響にご苦労され、また、対策にご尽力いただいておりますことに御礼を申し上げます。

さて本日は、第二期子どもをみんなで育む計画のご議論をお願いするものでございます。この計画の本市の子育て施策の基盤となるものでございますので、委員の皆様を活発なご議論をお願いするものでございます。

### 《柏女会長》

それでは秋元部長からお話がありましたように第二期計画の中間年ということで、計画の見直しを図ることが定められております。今日はキックオフということで皆様方のご意見もいろいろと頂戴できればと思います。

議題1は以前からこの計画策定の時の、私たちが流れを引いていた計画の計画案答申の附帯事項において、流山市に住む子どもたちが、どんな育ちをしていくことを願いたいのか、少し議論をすべきではないかという提言がなされています。

また議題2は、第二期計画の中で盛り込んだ、130の個別事業において、その計画と、或いはその計画で本来意図した事業のありようが、現実と少しずれているところなどがあるのではないかと。そのことをしっかりと踏まえた上で、第二期計画の見直しも図っていく必要があるのではないかとという投げかけが委員の中からは行われております。

この二つについて、何回かに分けて議論をして、次のステップである、中間見直

しに向けて動いていく必要があると考えて事務局と、あるいは皆様のご意見を踏まえてこのような議題とさせていただきます。

まずは最初の議題に入っていきたいと思います。第二期子どもをみんなで育む計画の見直しに向けた議題について事務局から説明をお願いします。

#### 《事務局》

資料説明「子ども・子育て会議に係る議題の設定について」

議題1 市民とともに描く子どもの未来像について

議題2 施策事業に対する課題共有について

#### 《柏女会長》

よろしければ、事前にご意見を頂戴した方から意見を述べていただければと思います。まずは橋本委員からお願いいたします。

#### 《橋本委員》

議案1を議論するには、委員全員がどのような観点からどのように議論して、どのように第三期計画につなげるかを、共通認識を持った上で議論を進める必要があります。そのために、参考となりうる事例を踏まえて、意見交換することを提案いたします。

一例としては、東京都政策企画局のこども未来会議がございます。この会議は令和2年9月から有識者により計5回の会議が開催されています。東京都の担当者に伺ったところ、ここでの議論を答申のようにまとめることは想定しておらず、それぞれの議論の中で提示された意見を参考にして、東京都各局の子ども関連事業に展開させる位置づけになっています。

私が列挙した資料は、直接この会議の議論に結びつくかは別のものです。流山として必要によりピックアップし、必要に応じて企画して、そのテーマを議論するというのも一つの方法とっております。

また、別の手法として事務局から、子どもの未来像を提言するに至る経緯を開示いただいて、それらをベースに議論する方法もあると思います。皆様と共通認識のもとに意見交換をすることによって、私ども流山市子ども・子育て会議としての独自の未来像が浮かび上がるものと期待いたしております。

《柏女会長》

ありがとうございました。続いて田中委員お願いいたします。

《田中委員》

子どもの未来像に関する意見は令和元年度の答申の附帯意見の一つに位置付けられていました。子どもの未来像についてこれを流山市として考えることについてどのようにしたらよいのかと腑に落ちない部分がありました。子どもといっても様々な子がいますので、例えば重度の障がいを持った子どもが保育指針で描かれているような未来像がそのまま当てはまるのかといったら違うと思います。子育てに関する悩みは小さいうちから解決することが重要ですので、相談機関の充実などのすぐ相談できる環境づくりや正しい知識を得ることができる場の提供が重要であると考えます。

子どもの未来像というよりも、流山の子育ての未来像を皆さんと一緒に話しあうことができたらいいなと思います。

《柏女会長》

それでは続いて、小澤委員お願いします。

《小澤委員》

私自身不勉強で、議題1についても本当に今になって少しずつ理解が及んできたところなのですが、橋本委員の提供資料に一通り目を通してみました。東京都ではこども未来会議で、私自身わくわくするようなテーマで子どもの未来像が示されていたり、千葉県の計画ではまた違ったテーマが示されていたりと、様々な議論が行われているのだとわかりました。先ほど田中委員がおっしゃったような議論ができたらすてきだなと思ったのですが、なかなか難しいテーマだと個人的に感じております。

《柏女会長》

ありがとうございました。東京都は法定計画に基づいた東京都子ども子育て会議がありますが、このこども未来会議は法律上に位置付けられたものではありませんので、もう少しフリーに意見交換を行うような性格が異なる会議になっています。

それでは続きまして、藪本委員お願いいたします。

### 《藪本委員》

1つ目は、橋本委員からあった通り、過去の会議で議論した経緯があって決定したこの理念について、現在なぜこの理念になったのかがわからなくなっているところがあります。第4期の最後の会議で事務局にも今回新しく改選をされる方にはきちんとブリーフィングの方はして欲しいとお願いしましたが、例えば、この会議とは別に第1期から第4期の委員の有志の方にご参加いただいて、経緯について話を聞く機会があってもいいのではないのでしょうか。

2つ目になりますが、第一期計画の策定時に基本理念で「切れ目がない」という表現について、当時議論を重ねた上で入れた経緯があります。残念ながらここ数年定量についての議論が多く、連続的な子どもの育ちに対する切れ目のない支援について議論がなされていません。第三期計画の策定に向けて、改めてしっかりと話をしていくような形をとって欲しいです。

3つ目ですが、私たち委員のスタンスの話になりますがこの議題の「市民とともに描く」ことについて、事務局による議題の設定がどうしても多くなってしまいます。今回のように委員発議によって議題設定をしてもいいというスタンスを持っておく必要があります。そのような場づくりをぜひ事務局にはお願いをしたいと思います。

また、毎回会議の時に、事務局から議事の冒頭でもいいので、計画の中でどのページのどの部分を今回議論するのかご説明いただきたいです。この計画に対して、当事者感や全体感が見えやすくなると思います。

### 《柏女会長》

ありがとうございます。今日はこの議題についてのご意見を頂戴した上で、内容については次回また詰めていくような形にいたします。

今回事前に意見をご提出いただいた方の他に、ご意見がある方はいらっしゃいますか。

### 《羽中田委員》

1つ目ですが、市民とともに描く子どもの未来像と表題が書かれていて、まず市民目線でしっかりこの話し合いをしていく必要があるということを感じています。先ほど田中委員からもありましたが、保護者がどのように考えているかをまず知りたいですね。これまで計画を策定するにあたり、何か市民からの情報を調査することはあったのでしょうか。市民が何を望んでいるのかははっきりしない限り、ここで話し合っても、やはり行政主導の内容しか出てこないのではないかと懸念を感

じております。子育てを楽しいと思えるような施策を進めていくわけですから、保護者がどういうことを、そして子育てに関わっている人がどういうものを必要としているかを知りたいというのが私の今の感想です。

また、保育所は指針に沿って保育を進めていきますし、幼稚園も教育要領に沿って進めますので、事業者側による評価は実施されていますが、市民による評価は、どのような形で今まで実施されていたのでしょうか。

次に2つ目ですが、これは会長にも伺いたいと思いますが、学校との繋がりも含めるといことであれば、教育委員会との連携も必要になってくるかと思いますが、その辺りはどういう形で進められていくのでしょうか。

#### 《柏女会長》

ありがとうございます。まず、教育委員会との連携の話については、必要に応じて関係各課がこの子ども・子育て会議には参加する形になっております。

もう一つは、これまで計画を作る前には必ず意識調査をしております。この流山の子育てについての満足度や、この辺が不足しているというご意見などを評価していただいています。

また、支援センターや児童センターに、アンケート調査票の配布をお願いして、そして自由記述も含めて書いていただいています。それをもとに、130事業の評価に、結びつけるような議論を進めています。

それは、流山市のホームページの議事録の中に、調査結果などや自由記述も含めてですね、公開していたと思います。過去の記録については、事務局から各委員へ該当部分を案内するなどお伝えいただいた方がいいと思います。

他はご意見ありますでしょうか。

#### 《矢口委員》

私は今回の橋本委員の意見を見たときに、元々の会議のあり方がどうだったのがちょっとわからなくなってしまって、意見を書くのをちょっと差し控えさせていただきました。もう1回この会議がどういう経緯でできて、目的があるのかを私なりに調べてみました。

この会議は宛て職の方が多いということは、その方々がその現場でとらえている課題があると思います。それをここに持ち寄って、議論することが必要だと思います。

これまでの委員の皆さんが積み上げてきたものがあって、私たちが継続して、ま

た新たな目線でということ選ばれたのだとすると、そのことを認識する必要があると思います。私が主任児童委員という立場でここに参加させていただいて、私が見えている課題を皆さんにお伝えしなければいけないと思いました。

理念の話はこれまで藪本委員と田中委員がずっと継続していらっしゃると思いますので、その経緯をこれから学ばせていただきたいです。

私は宛て職で他の会議にも出席していますが、自分の職種や主任児童委員という立場でこういうことを期待していますと言われることが増えています。皆さんも、様々なところで色んな課題を抱えて見ている部分がありますので、市民の意見を先に聞くというよりは、今ここになぜその宛て職で入っているのか。そもそもこのメンバーがどのように構成されたのかを明確にして話を進めるのがいいのかなと思いました。

#### 《柏女会長》

ありがとうございます。議論の進め方などについてご発言をいただきました。市民代表が14名中5名いらっしゃるほか、業界代表の方々もいらっしゃいます。

それぞれの個人的なご意見を頂戴する場合もあれば、組織代表としての意見を集めて、そしてご発言される方もいらっしゃいますが、業界代表の方々については業界の上でのご意見を頂戴するということが基本になっています。

それでは他にいかがでしょうか。

#### 《高山委員》

矢口委員が色々お話してくださったこと、私も同じことを考えておりました、色々意見を出したいなと思っていましたが、正直まだ理解が追いついてない部分があります。

藪本さんがおっしゃっていた、1期からの検討経緯や基本理念のところは正直まだ腹落ちしてないところがあって、もし別の機会をいただけるようであれば私は積極的に参加させていただきたいと思います。

#### 《柏女会長》

ありがとうございます。伊藤委員お願いいたします。

#### 《伊藤委員》

私も今回から初めて委員になったのですが、今回の議題を見て、壮大な議題が出

てきたなと感じました。皆さんみたいにまだ勉強も追いついてないところがありまして、皆さんの意見聞きながら少しずつ理解してきていますが、やはり子どもの未来像をこの場で意見を出しながら、まとめることも必要かと思います。

おそらく過去にも、この会議の中でこういった子どもの未来像に関する意見も出たこともあると思いますので、そうしたことを含めながら、議論を重ねていくような形がよろしいのかなと思います。

《柏女会長》

ありがとうございます。それでは事務局からお願いします。

《事務局》

皆様からご意見いただきましてありがとうございました。先ほど橋本委員から意見がありましたが、やはり大きい議題であり、同時に答えがないものになります。

今回皆様からのご意見をいただいた中で各施策に生かしていくとことが適切であると考えています。

また先ほど市民の意見を取り入れているのかということについては、計画策定前には市民アンケートを行っています。また、今回の見直しも含めて計画の策定にあたっては教育委員会との連携を取った中で行っています。

また、藪本委員から意見いただいた、これまでの委員の皆様方との場を設けることについては、現委員の皆様の中に第一期からの委員がいらっしゃいますし、様々な団体や市民の代表でいらっしゃいますので、現委員の中で共有を行ったり、話し合いができれば、大変ありがたいと考えます。

また同時に、委員提案についてご意見をいただきました。今回の通り、計画の見直し、第三期に向けての議題設定に関連した内容について、提案をいただくことを大変ありがたく思っております。

まず来年度は見直しの作業策定に力を注いで見直し案を作り上げていきたいと考えています。

また子ども・子育て会議の進行においては、議論している内容が計画のどの部分についての内容なのか、委員において分かりやすくなるよう今後工夫いたします。

《柏女会長》

ありがとうございます。今日のご意見も事務局で取りまとめていただいて、その内容を提示していただきたいと思います。今日の議論を伺っていて、やはり委員

間の共通理解が足りなかったことについて、それぞれが理解する契機になったのではないかと考えています。そういったことを踏まえて、次回また議論していきたいと考えております。

それでは次の議題について、130の個別事業に関してですが、これまでは量についての議論を中心に行っていましたが、これからは計画において色んな問題を考えていく必要があります。個別事業について、現実と少し乖離があるのではないかとということについて、ご意見を頂戴したいと思います。

橋本委員から議題2について、よろしく願いいたします。

#### 《橋本委員》

まず、第二期計画の基本的視点、基本的目標、主要課題、これらに関して見直すべきものがないのか、そのためには、第二期計画が2年経った現時点での福祉、教育、働き方、まちづくり、市民意識の変化やこれらの流布状況を大きく整理した上で、130事業を検証していきたいと思っています。

その検証は定性的なものではなく実態数値で評価する必要があります。それにより、即時修正するもの、あるいは見直しをするもの、第三期計画の課題とするものといった分類ができると思います。

まず全体の環境変化、これがどれくらい2年間の間に乖離しているものかどうかを見た上で進めてはどうかと思います。

#### 《柏女会長》

ありがとうございます。分析の仕方についてご提案ありがとうございます。続いてですが、藪本委員お願いします。

#### 《藪本委員》

一つ目は、現場の声をどう拾うかがスタートであると思っています。その中で事業評価をする際に、各分野で市民の声を通して、どう見えているのか声を届ける役割を我々は担っています。例えば、その場ですぐその事業の修正をすることができるもの、この会議の中でできるもの、できないものが色々ありますが、実施事業との計画のズレを明らかにしていくという役割を我々が担うべきではないかと考えております。

これは以前もお話ししましたが、目標設定の妥当性についても同じことが言えます。議題1のところでお話があったように、我々のパーソナリティやバックグラウ

ンドがお互いにわからないと、議論の発展にならないと思います。これはぜひやらせていただきたいなというところが、この一つ目の提案の背景にあります。

二つ目は意見の出し方について、以前意見書を出したことがあります、無かったことにされておりました、そうしたことはまずいのではないかと意見を意見として出しています。議事録にも資料も配付されておりましたし、私は公式な意見として出したつもりですが、これはご検討いただければと思います。

#### 《柏女会長》

ありがとうございます。二つ目の意見については、業界代表の方は、業界代表としてのご意見なのか、この会議についてのご意見なのかをしっかりと分けて、意見書を出していただくような決まりを作った方がよいと思います。ご検討ください。

それでは続きまして、松本委員お願いします。

#### 《松本委員》

私はファミリーサポートセンターとして参加していますが、まず会議のみなさんに、ファミリーサポートセンターのことを知っていただきたいということと、実際に課題になっていることを具体的に載せました。

まず、最初の提供会員不足については、ファミリーサポートセンターでも今後の対策案の方は考えておりますが、違う観点から見て、また別の対策案もあると思いますので、ぜひ委員さんの方に積極的に提案をしていただければと思います。

2つ目については、昨年のコロナが始まる以前からありましたが、メンタルに疾患がある保護者からの援助依頼が増えています。通常は援助期間が短期間ですが、今までになく長期化しています。保育園の送迎などが、この先どこまで続くのかという不安が提供会員から上がっています。また、そのお子さんが小学校に上がったとき、送迎はなくなるため、お母さんの負担がまた増えてきます。そういったサポートをどこへつなげていけばいいのか、今ヤングケアラーといった話がありますが、このまま長期化すると、いずれ中学高校になった時にそのような対象になってしまうのではないかとこの心配もあります。

ファミリーサポートセンターは、対象年齢が12歳、小学校6年生までですので、中学校に入ってから助けてあげることができない状態です。流山市で切れ目のない援助という形で協力していただきたいですし、あとはファミリーサポートセンターのアドバイザーの方もプロではありませんので、そういった疾患のある方の対応が非常に難しくなってきます。そのために、市主催の研修等に参加させていただきた

いと考えております。

《柏女会長》

ありがとうございました。このように現実の状態とファミリーサポートセンターの事業内容が乖離しているという現状を、ご報告いただきました。

それでは続きまして、田中委員お願いします。

《田中委員》

私はNPOの「なこっこ」として活動して感じていることですが、民間との協働について、橋本委員からもありましたが、どこまで進んでいるのかが把握できる、民間と協働している一覧のようなものがあるといいと思います。委託や指定管理はわかりやすいですが、これ以外で協働しているものはどのぐらいあって、何が成功しているのみたいなものがあるといいと思います。

計画の中で、例えば事業番号50番のこどもの権利条約の周知啓発について、スクールロイヤーによるいじめ防止授業とありますが、このほかの取組みとして、いじめに関する相談先が記載された手紙が小学校より配布されているのを見たことがあります。こうした取組みは本当にこどもの権利について、子ども自身に伝えることができているのかどうか、不足していると考えています。

CAPなのはどのような民間の団体と行政が協働して、子どもたちにこどもの権利について伝えるような活動があってもよいと思います。

他の自治体では、相談事業をしている団体に対して活動費を補助しています。流山市も補助制度はありますが、他の自治体と比べると限定的ですのもう少し拡充していただけたらと思います。

また、事業番号21番の「子育てに関心のある方々のネットワークづくり」とは具体的に何をしているのでしょうか。教えてください。

事業番号34番の妊娠・出産・子育てサポートの産後ケアについては、近隣自治体と比べると利用料が高く、利用しにくいという声をよく聴きます。事業評価には、そうした課題や利用率が示されていないため、検討していただきたいです。

《柏女会長》

事業執行に関するところと個別事業についてのご意見、重点的な大切なことだと思います。続きまして、小澤委員お願いします。

#### 《小澤委員》

不登校児童生徒への支援事業の提案をさせていただきたいと思います。流山市内における不登校児童生徒数はここ数年で顕著に増加しております。しかしながらそのような子どもたちにとって、安心して過ごすことのできる学校や家庭以外の日中の居場所、個々のニーズに応じることのできる受け皿が圧倒的に不足しているのが現状です。不登校は様々な要因の相互作用によって起こるものですので、不登校児童生徒への関わりはその背景も考慮しながら、慎重で丁寧な関わりが必要です。

流山市内において、来年度、新川小学校内に教育支援センターとして、不登校児童小学生の子供の支援が始まるという記事を以前目にしました。このような新たな事業が始まるのはとても喜ばしいことだと思っています。

この計画の個別事業の中に不登校という言葉が出てきておりませんので、計画の見直しにあたり不登校支援事業を盛り込んでいただきたいと思います。

#### 《柏女会長》

ありがとうございます。政策のエアポケットともいうべきところに光を当てる貴重なご提案だったと思います。スクールソーシャルワーカーの配置は進んでありますが、不登校児童数はコロナ前から統計史上最高を更新し続けておりますので、この分野についての取り組みが急務であると思います。ありがとうございます。

#### 《小澤委員》

実は流山親子劇場では、今年度の4月から元スクールソーシャルワーカーが、フリースペースを始めております。そういった子どもたちは、多人数の中に入ることが難しい子どもが多いので、少人数で本人が自分らしく認めてもらえる場所がたくさん必要になってくると思います。

元スクールソーシャルワーカーがボランティアでやってくださっていますが、一人で見ることができるときの人数は限られていますので、今後有償のボランティアを雇いたいと思っていますが、資金面が課題となっています。市のコミュニティ課で補助金申請しましたが、流山市の市民活動の事業補助金は、事業に対してお金を出すので人件費に対して出ないということで、この支援事業を今後どのように展開すべきかと考えています。

#### 《柏女会長》

グループスタッフへの財政的な支援をどう考えていくかということが大きな課題

であると思います。ありがとうございました。

このほかにはご意見いかがでしょうか。

#### 《矢口委員》

個別事業の128番の特別支援教育の推進についてですが、発達に心配のあるお子さんの個別指導計画と個別支援計画の策定について気になっています。

以前相談を受けたケースでは、小学校までは計画作成の支援を学校から受けていたが、中学校では担任の先生で対応することが難しくなってしまった事例がありました。個別指導計画支援計画の中身を拝見させていただいたら、小学校6年間、同じ目標、同じことが書かれていて、そういうことを学校の中でどこまで対応しているのかってことに疑問を感じました。

もう一つ、事業番号の130番の子どもの貧困対策について、私は主任児童委員等地区の社会福祉協議会の副会長も、一緒に兼任しております。こちらで子ども食堂を行っていますが、年末に年越しに向けて心配なご家庭に食料支援を行いました。子ども食堂と行政とのかかわりがいないため、情報網がありません。いろんな活動をしている方がいらっちゃって、そこと行政との関わりというのがなかなか難しいというのが、市民活動団体の方から聞かれる声だと思っております。

流山市が、今後その市民活動に力を入れるのであれば市民を育てていくという意識が必要だと思っていて、行政と連携する時に、本当に心の通ったような形の連携ができたらいいのかなと感じています。

子どもたちのためにという目線にもう一度立ち返っていただいて、どこで何を一番に考えなきゃいけないかを考えながら、この件についてはやっていただきたいなと思います。

#### 《柏女会長》

以前流山子育てネットの勉強会で、南流山地区の子ども食堂が行政と繋がっていて、事例の報告などもあったように記憶していますが、地域によっても違うということでしょうか。田中委員わかりますか。

#### 《田中委員》

南流山子ども食堂さんはどちらかというと社会福祉協議会とつながっていますので、おそらくそこからのつながりなのではないでしょうか。金銭的な補助も受けていたと記憶しています。

流山市は子ども食堂に対し金銭的な補助を行っていませんので、そうした部分での行政との係わりはないと思います。

#### 《柏女会長》

ありがとうございます。子どもの貧困計画についてどうするかは中間見直しの最大のテーマになるかと思います。まだ流山市は貧困計画を策定していませんので、どの部分を、子どもをみんなで育む計画の中に盛り込んでいくのかが重要な検討課題になるのではないかと考えています。

今矢口委員がおっしゃった子ども食堂との関係をどうしていくのかは議論をし、各新規事業の検討後、流山市に要請するというようなこともあっていいのかなと思います。議論は、中間見直しの方でしっかりと生かしていければと思います。

他はいかがでしょうか。

#### 《羽中田委員》

皆さんのご意見を色々と伺っていて、どの部分をこの会議が担うかが、中々見えてこないのが私の今の状況です。

例えば、子ども食堂などは子育てに大きく関わりますが、やはり社会福祉協議会が政策とか、検討する内容だと思いますし、いじめや不登校に関しても、教育委員会で話し合いをしているわけで、子ども・子育て会議が何を担うのかがあまりにも、漠然としています。先ほど会長もお話があったように、いろいろな部署との関連がありますので、ある部分は提案を、ある部分はこちらで担うという住み分けしないと、何からどう話し合っているのか、話が大きくなりすぎていて結局目標とするところまで到達せずに、曖昧に終わってしまうという可能性があると思いました。

今までの事業項目で、どの施策がどのようにという部分を、もう少し議論する必要があると思いました。事業内容についての評価はされていますが、一体何が良くて何が悪かったのかが、捉えられていません。それぞれの専門のお立場の方からお話を伺いたいと思います。個別で内容に関わる評価を再度した上で、新たな計画を策定する必要があると感じています。

#### 《柏女会長》

ありがとうございます。第二期計画の6ページに、子どもをみんなで育む計画と、関連する計画との関係などについては、記載されております。もう一つは130事業について議論をするときは関係各課の教育委員会も含めて参加をいただくような

形でなっております。また教育委員会については、この会議の委員にも含まれております。

関係各課が、中間見直しの際にできるだけ参加をしていただくということが、私はとても大事なことだと思っておりますので、これは事務局の方に強く申し上げておきたいと思っております。この中間見直しの議論を本格的に始めるときには、ぜひ、関係の計画と、この計画との整理をもう一度改めて事務局の方でお示しいただければと思います。

他にはいかがでしょうか。

#### 《伊藤委員》

先ほどの子ども食堂の件ですが、私は流山市社会福祉協議会の職員でもありますので、誤解があったらいけないのでお伝えさせていただきます。子ども食堂というのは、社会福祉協議会が運営しているわけではなく、もちろん地区の社会福祉協議会が関わっているところもございしますが、地域のボランティアの方々が集まって立ち上げて運営されているところがほとんどです。補助金についても民間企業の助成金を活用してその申請の手伝いもサポートを社会福祉協議会がさせていただいておりますのでそういった関係性があるということでご理解いただければと思います。

#### 《柏女会長》

ありがとうございます。他の方いかがでしょうか。

#### 《田中委員》

先ほどの子ども食堂の件に戻りますが、前に南流山子ども食堂は、南流山の地区社協から寄付をいただいたことがありました。他の地域では地区社協が中心となって子ども食堂を運営しているところもありますが、流山市はそうではなく、個々が集まって子ども食堂のネットワークを形成している状況です。

#### 《矢口委員》

子ども食堂はお金の問題ではなく、課題や問題が見つかったときに、行政につながる方法がないことが問題だと思っています。結局大変なお子さんとかが見つかった時にそこから行政につなぐ先が皆さんわかりません。

例えばこういう課題がある子がいたら子ども家庭課につないでくださいとか、学校に言ってもいいですよいつもお伝えするのですが、どうしても子ども家庭課に

電話すること自体のハードルが高いので、こういうお子さんがいるけれどもどこに言ったらいいのですかという相談が、こちらに来る場合があります。そうした事態も想定して、子ども食堂を運営されている方たちとの連携が必要であると思います。

《柏女会長》

ありがとうございます。いただいたご意見について、また事務局で整理をしていただいて、それから関係各課の方につないでいただけないでしょうか。

《事務局》

皆様ご意見ありがとうございました。会長からありました関係各課への周知については、次回の会議でもご意見をいただくとお思いますので、取りまとめの上周知を行います。

《柏女会長》

ぜひ例えばこの計画には現在載ってないけれども、こうした活動があるといったものがあると思いますので、それらについて次回関係各課に、ご意見を報告していただきたいと思います。

《事務局》

1点だけ補足をさせていただきますが、田中委員からいただきました、子育てグループへの支援については、地域子育て支援センターや、児童センターなどを活用しまして、同じ世代の乳幼児でしたり、初めてのお子さんを育てる保護者が集まって交流するような活動のことです。

《田中委員》

子育て支援のネットワークづくりは、親のグループではなく、子育て支援に関心のある方々へのネットワークとあるため、そのことについて教えてください。

《事務局》

承知しました。整理したうえで再度回答いたします。

《柏女会長》

今日だけではないので、次回またご発言いただいても結構だと思います。

よろしければ、議題については、終了としたいと思います。その他のことについて何か皆様からご意見ございますか。

特にないようですので、今日の会議をこれで終了とさせていただきます。次回の会議についても一度アナウンスをお願いします。

《事務局》

次回会議の議題につきましては、本日いただいた議論、あるいは、本日各委員のお話を聞いた中で、また違ったお考えがあらうかと思えます。議題は今回と同様の内容で、日程は2月10日の午前10時から予定しております。

《柏女会長》

ありがとうございます。お互いの相互理解を深めるのに、かなり役に立ったディスカッションだったと思います。

このような形で、第二期計画の中間見直しを進めていければと思いますので、これからもどうぞよろしく願いいたします。今日はありがとうございました。

以上